

# 技あり！絵金のここがスゴイ



## 絵の具の仕掛け

- 血赤** 夜須で採ったという説もある班銅鉢や物部村で採れる水銀朱という鉱物をつぶして熱し、独自の工夫を加えて、鮮烈な赤を作り出しました。百数十年の時を経ても色あせない絵金の赤は「鮮血の絵師」と呼ばれる由縁です。
- ろうそくの炎に怪しく光る眼** 描いた眼の上に溶かしたロウを薄く塗っています。普通の明かりではあまり分かりませんが、揺れるろうそくの炎に怪しい光を宿します。
- ろうそくの灯りに揺らめく髪** 貝殻を粉にしたものを墨に混ぜ、線で描写。揺れる灯りに合わせて髪の毛の一本一本が揺れて見えます。

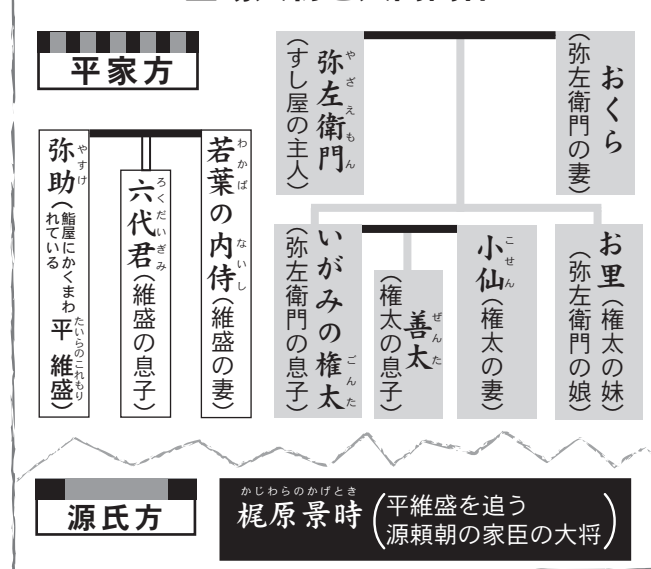
## 構図のヒミツ

画面に深い奥行きを持たせて、迫力と立体感を表し「鮓屋の段」の見せ場となっている場面を、分かりやすく描いています。絵金の芝居絵に多く使われている技法の一つで「透視図法」といいます。

有名な俳優さんや音楽アーティスト・芸術家の人たちも絵金の絵を勉強のために見に来るんですよ！



## 登場人物と人間関係



# 知れば知るほどオモシロイ！

今年の絵金祭り、弁天座で上演されるのは「義経千本桜 鮓屋の段」  
 四百年以上の歴史を持つ歌舞伎は日本の伝統芸能だけれど、歌舞伎って観たことがないし、昔の言葉を使ったセリフや三味線もよく分からないし難しそう…  
 と、ところが「土佐絵金歌舞伎」では、小学生たちが立派に舞台を務めているというから、中学生としては少し悔しい。  
 だから「義経千本桜 鮓屋の段」を私たちが紹介します。

# 義経千本桜

# 鮓屋の段

トザイトオーザイ



## いがみの権太

「維盛の首」と「維盛の妻子」だと偽り、実は自分の妻子を差し出す権太。顔を背け歯を食いしばる表情に、苦しい胸中が表されています。

## 維盛の身代わりの首

追っ手が来た時のためにと弥左衛門が身代わりの首を用意しすし桶の中に隠していました。

## 梶原景時

維盛を捕まえようと追ってきた源頼朝の家臣の大将。権太が差し出した首を維盛かどうか取り調べている。

## 弥左衛門

## おくら・お里

息子の権太が恩義ある維盛の首を差し出したと勘違いし、怒って刀をとる弥左衛門。それを必死で止めようとしている妻のおくらと娘のお里。



## 小仙

維盛の妻子と見せかけて、実は今までの悪行を後悔し、親孝行したいという権太の気持ちを知り、自ら身代わりを進み出した権太の妻・小仙と息子の善太。二人の思いもむなしく権太は父・弥左衛門に刺されて死んでしまいます。

## 善太



取り調べそっこのけで、魚をほおばる景時の家来。これは生魚ではなく、当時の鮓(魚と飯を重ねて発酵させたもの…なれ鮓)。絵金は深刻な場面をちやかすような人物をよく描いています。

今から800年以上も昔のこと。  
 舞台は、現在も千本桜で有名な奈良県・吉野にある評判のおすし屋さん。  
 そこで起こった親子の悲劇です。  
 平家が「壇の浦の戦い」で滅んだ後、すし屋の主人・弥左衛門は昔受けた恩により、源氏に追われる平維盛の素性を隠し使用人の弥助としてかくまいます。  
 そうとは知らずに娘のお里は、弥助にいちずな恋心を燃やしますが、そこへ維盛の妻・若葉の内侍と息子の六代君がすし屋を訪ねてきます。しかし、維盛を追ってきた源氏の家臣・梶原景時が現れ、弥左衛門は維盛と妻子を逃がそうとします。【この日のために弥左衛門は、維盛の身代わりの首を用意し、すし桶の中に隠していました】

そこに現れたのが父・弥左衛門から勘当された「いがみ」と異名をとるならず者の息子・権太。事情を知り「金になる大仕事だ」と維盛の首と妻子を梶原景時に引き渡し、褒美に源頼朝の陣羽織をもらいます。景時は引きあげ、それを見た父・弥左衛門は怒り、権太を刀にかけ刺してしまいます。  
 虫の息となった権太は言います。  
 差し出したのは維盛ではなく、すし桶に入っていた身代わりの首と、自分の妻・小仙と息子・善太だったのだと…。つもる親不孝のおわびのしるしに大芝居を打ったのだと言い残して息絶えたのでした。



義経千本桜 鮓屋の段  
 二曲一隻屏風 / 紙本着色 / 141.0 x 139.0cm  
 赤岡町本町四区所蔵